

### たくさんのお応募ありがとうございました 人権標語募集結果



高島市人権教育推進協議会では、人権標語を募集したところ、791点（昨年度817点）のご応募をいただきました。ありがとうございます。

優秀作品は次のとおりです。

#### 【小学生 低学年の部】

いやなこと、いわない、しない、まもろうね。

（新旭北小学校2年 落合 正雄さん）

だいじょうぶ そのひこことばで 元氣いっぱい

（今津東小学校3年 山内 智江さん）

#### 【小学生 高学年の部】

ありがとう いつも心に 思いやり

（朽木東小学校5年 米村 誠さん）

思いやり 心と心の バトンパス

（青柳小学校5年 本庄 日菜乃さん）

大丈夫？ やさしい言葉で 心はほかほか

（今津東小学校6年 勝田 伸也さん）

気づこうよ 自分の言葉の その重み

（高島小学校6年 沢井 楓さん）

#### 【中学生の部】

わかり合う 人それぞれの かがやく個性

（マキノ中学校2年 岡本 美歌さん）

それぞれの ちがう想いを 大切に

（安曇川中学校2年 吹田 万理さん）

あの時の あなたがくれたやさしさを 今度は私が伝えます

（湖西中学校2年 伊庭 あずささん）

#### 【一般の部】

目をじて つたわる温もり みな 同じ

（上山 江利子さん）

〒930-0244 57  
社会教育課

### 除雪作業にご協力ください



降雪期を迎え高島市および滋賀県では、道路交通と市民生活の安心・安全のため、本年度も積雪時の道路除雪を実施します。

除雪作業をより効果的で円滑に実施できるよう次のことについて、特に留意いただきますようご理解とご協力をお願いします。

◎路上駐車せず、必ず適正な場所に駐車しましょう。

除雪作業が遅れる原因になります！

◎目印をつけましょう

石垣や庭木、除雪作業時に確認ができず傷つける場合があります。



赤い目印を付けた2m程度の竹さおをたてるなど明示してください。

◎枝打ちをしましょう

道路際の竹や木などは、降雪や着雪により道路側に倒れたり覆いかぶさることがあります。土地所有者の方で枝打ちや伐採などの処理をしてください。

◎冬用タイヤに換えましょう

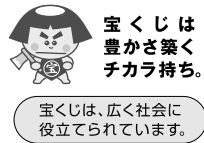
車には冬用タイヤを装着してください。またタイヤチェーンやスコップなど常備し、時間に余裕を持って出かけましょう。

※十分注意しながら除雪作業を実施いたしますが、雪の塊が宅地への出入口や車庫前などをふさぐことがあります。

大変ご不便をおかけしますが道路交通の確保のため、ご理解とご協力をお願いします。

（高島市土木交通部土木課）  
（滋賀県高島県事務所建設管理部）

### 宝くじ助成金で永田婦人防火クラブの活動備品を購入



宝くじは豊かさ築くチカラ持ち。宝くじは、広く社会に役立てられています。

市では、(財)日本消防協会が行う「女性消防隊による安全で災害に強い地域づくり推進事業」の助成を受けて、次の備品を購入し、「自分たちのまちは自分たちで守る」という精神に基づき活動されている永田婦人防火クラブに配備しました。

この事業は、同協会が(財)自治総合センターから受け入れる助成金を財源として、女性消防隊や婦人防火クラブの育成強化を図るための助成を行い、安全で災害に強い地域づくりを推進するとともに、宝くじの普及宣伝を目的として行われているものです。

〒930-0244 消防総務課

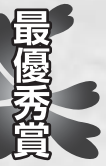


D-1級軽可搬消防ポンプ1台、発電機2台、投光器2台

# 「生きるよこしんじょは、行動するいよ」

## 「お父さんお母さんへの手紙」

### 入賞作品



#### 最優秀賞 「生きるよこしんじょは、行動するいよ」

岡部 達美（東京都） 14歳

お父さん、お母さん。うちって、よく、変わっていると、友だちに言われているのを、知っていますか。

毎週火曜日。一日中、電灯と冷暖房をつけないようにして、もう九年が経ちました。世の中が、地球環境問題に着目するようになってから、今も続けています。また、世界で貧困や飢餓が問題になると、すぐ、いらなくなった本や衣類などをまとめて、支援団体に送り始めましたね。まるで、自分の家のことより、世界のことが大事だというように。だから、私は、いつのまにか、学校で、ボランティア活動の先頭に立っています。数学者なのに、非行少年の社会復帰を手伝っている、お父さん。家のことより、ひとり暮らしのお年寄りのことが心配なお母さん。私は、そんな家の長女として生まれました。

私が小さかった頃から、家には、大勢の若者が出入りしていました。

「みんな、悩んでいるんだ。話を聞いてもらいたいんだ。だから、達美も、お兄さんたちの話し相手になるんだよ」

父の言葉の意味も分からないまま、私は、お兄さんたちの話し相手になりました。そして、その頃から、世の中には、「偏見

見」というものがあり、それに苦しみ闘っている人たちがいることを、少しずつわかるようになっていきました。

私が中学生になった時、お母さんが、一冊の本をくれましたね。宇野千代さんの『幸福の言葉』です。短い文章が、たくさん書かれてありました。読んでも読んでも、飽きない。それどころか、どんどん、私の心の中に入ってくる言葉。言葉。言葉。私は、その中の、『生きる』という言葉は、行動するということなんです。でも、うちは全く違いました。頭より手足。実際、行動しなければ、価値がないという考え方。すごく厳しくて、いつも大変だけど、私は、そんな家の方針が好きです。だって、動いた後、人のためになれた充実感を、ものすごく味わうことができるでしょ。

今から、だいじ前のこと。お父さん、覚えていますか。

「お父さんとお母さん、どこに行くの」

幼稚園に通っていた私を、伯母に預け、お父さんたちは、阪神に向かいました。大震災にあった人々を手助けにいったのです。その時の、何ともいえず不安だった思い。でも、その後、お母さんたちが何をして来たか知った時、私は、この家に生まれたことを、この上ないことだと感じました。

だから、私は、この家が好き。変わった家族が大好きです。

「生きる」ということは、行動するということなんです。だから、私は、これから、いっぱい行動していきます。

藤樹先生生誕400年を記念し募集した「お父さんお母さんへの手紙」には、全国から619通もの応募をいただきました。このコーナーでは、入賞された方の作品をシリーズでご紹介します。 図政策調整課 ☎(25)8114